

ケアネットせとうち通信

笑顔で 長生き できるまち

地域包括ケアシステム全体研修会

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために みんなでつくろう！ 笑顔で長生きできるまち



＜公立みつぎ総合病院 沖田副院長＞

第1回 9月25日（木）

基調講演：公立みつぎ総合病院 副院長 沖田光昭 氏

パネルディスカッション：瀬戸内市の医療・福祉・保健専門職の立場から

瀬戸内市は、市民のみなさんが「**笑顔で長生きできるまち**」を目指し、地域の在宅医療・介護・福祉・保健等の包括的な支援、サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の仕組みづくりに取り組んでいます。地域包括ケアシステムについて理解を深め、より充実した

多職種連携や支援につなげることを目的とし、地域包括ケアシステム全体研修会を行いました。

9月25日（木）公立みつぎ総合病院より沖田副院長をお迎えし、「住み慣れた地域で安心して暮らせる地域包括ケアの推進」と題し、基調講演をいただきました。地域のQOL（生活の質）向上を目指し、昭和40年代から取り組まれている地域包括ケアの状況を伺うと同時に、**地域力を培いネットワークを拡げていくこと**の大切さを学ぶことができました。パネルディスカッションでは、瀬戸内市の医療・高齢者支援・障がい者支援・健康づくりに関する取り組みについて、それぞれの専門職のみなさんより報告をいただきました。

11月27日（木）「本人の意思を尊重したターミナルケアを考える～それぞれの立場から～」と題し、地域の中で迎えるターミナル期について、家族・医師・歯科医師・訪問看護・介護支援専門員・小規模多機能ホーム・特別養護老人ホームの立場から実践報告をいただきました。発表者のみなさんから「**相手に寄り添うことを忘れない**」「**本人と家族の想いを受け止める**」等のターミナルケアに対する想いが伝えられました。

私たちが住み慣れた地域の中でターミナル期を迎えたいと願った時、必要となるのは、本人や家族の要望に寄り添い、共に歩んでもらえる支援ではないでしょうか。「その人らしく生きる」を尊重し、多職種が連携し生活を支えることができるよう、この度の学びを今後の支援に活かしていきましょう。

第2回 11月27日（木）

実践報告：本人の意思を尊重したターミナルケアを考える
～それぞれの立場から～



＜ターミナルケア実践報告会＞

邑久医師会共催 在宅医療連携研修会 を開催しました

8月23日(土) 御津医師会森脇医師をお迎えし、在宅医療連携研修会を行いました。



<御津医師会 森脇医師>

御津医師会では「**ときどき入院、ほぼ在宅**」をモットーに急性期病院と医師会の連携、地域の多職種や町内会と共に在宅医療ネットワークを築いています。

邑久医師会、瀬戸内市内の介護支援専門員等 48 名の方々が参加され、御津医師会の取り組みや多職種連携について学びを深めることができました。



糖尿病セミナー

- 第1回「糖尿病について」 7月15日
- 第2回「糖尿病の薬と検査について」 8月19日
- 第3回「糖尿病の食事と運動について」 9月16日



瀬戸内市では糖尿病の方が増えており、早期治療・重症化防止が課題となっています。専門職のみなさんが支援に必要な知識を深め、互いの連携がスムーズになることを目指し、糖尿病セミナーを行いました。

瀬戸内市民病院の医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・管理栄養士・理学療法士を講師にお迎えし、糖尿病の症状、治療薬、検査方法、食事療法と運動療法について学びました。

3か月に亘るセミナーに多くの方が参加され、**毎日の生活の中で糖尿病と上手に向き合い、治療を継続していくポイント**を学ぶことができました。

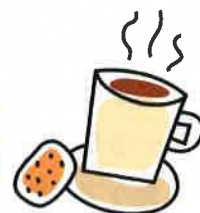


<瀬戸内市民病院 浅海医師>



支援の“わ”が広がっています!!

ケア・カフェせとうち



医療・介護・福祉者等の顔の見える関係づくりと日頃の支援に関する相談の場である「ケア・カフェせとうち」が定期的に開かれています。

8月21日(木) テーマ“依存症”は76名、10月23日(木) テーマ“連携”は96名の専門職のみなさんが参加されました。

毎回参加されている方からは、「**顔なじみの方が増え、日々の支援がスムーズになってきた。**」「**他の職種の役割や仕事内容が理解できるようになった。**」という声も聞かれます。

専門職が互いを理解し合い、それぞれの立場で取り組めることを考えることは、多職種連携の第一歩です。

ケア・カフェせとうちをきっかけに、支援の“わ”が広がっています。みなさんも是非一度ケア・カフェせとうちへご参加ください!!



ケア・カフェとは… ケアに携わる支援者の顔の見える関係づくりと日頃のケアの相談の場です。カフェのような雰囲気の中で、グループに分かれてテーマにそった会話をします。さらに内容を参加者全員で共有し、いろいろな意見を持ち帰ることを目的としています。

うつ病を理解する

- 第1回「高齢者のうつ病について」 10月16日
- 第2回「高齢者のうつ病の支援について
～事例を通して考える～」 11月13日

高齢期は家族関係の変化や加齢に伴う健康状態の変化が見られます。そのような変化からうつ状態となり、支援を必要としている方がみなさんの周りにもいらっしゃるのではないのでしょうか。高齢者のうつ病について理解を深めるため、慈恵病院より石津医師をお迎えし、研修会を行いました。

第1回「高齢者のうつ病について」では、老年期うつ病と認知症の関連や老年期うつ病の治療についてお話いただきました。第2回「高齢者のうつ病の支援について～事例を通して考える～」では、グループに分かれ事例を共有し、実際の支援方法について学びを深めました。

参加者のみなさんより「**老年期のうつ病と認知症の違いが理解できた。**」「**家族や周囲の受け止め方、関わり方が大切。**」という感想や「**グループで話し合うことで様々な気づきがあり、良い経験ができました。**」という声も聞かれました。

今後も多職種連携の視点を大切にし地域の中でみなさんが笑顔で過ごせるよう、支援を続けていきたいと思います。



<慈恵病院 石津医師>



<事例共有の様子>

在宅医療普及講演会

10月18日（土） ゆめトピア長船
夢いっぱいホール

【演題】「がんばらない」けど「あきらめない」
～命を支えるということ～

【講師】 鎌田 實 氏（医師・作家）



地域みなさんと共に在宅医療について考えていくため、在宅医療普及講演会を開催しました。

長野県諏訪中央病院で「住民とともに作る医療」を実践されている鎌田実氏（医師・作家）をお迎えし、地域の中で命を支えてこられた活動や自らの人生をどう生きるか等、お話いただきました。

約400名の地域みなさんが来場され、和やかな雰囲気の中、これからの人生をどう過ごすか、周りの人たちのために自分には何ができるか等、考える機会となりました。

～来場者のみなさんより～
「皆がほんの少し 誰かのために」をいつも心に留めておこうと思います。
・1%の力の大切さを感じました。何かできる!!
私の人生はまだまだやること一杯です。
・「人間は心を持った生き物」人は、生きがいを持って生きていくこと、そして絆が大切。
・ほんの少し、誰かのため何かのために生きることによって自分の健康も人生も豊かになる。
今後、自分が何を考え、どう生きていくか参考にになりました。



＜ケアネットせとうち事務局＞

瀬戸内市保健福祉部 トータルサポートセンター準備室

〒701-4246 岡山県瀬戸内市邑久町山田庄 862-1（瀬戸内市総合福祉センター内）

電話：0869-22-3800

FAX：0869-22-3801